



疫病中の 2020 年の四旬節

主任司祭 マルコ・ターディオフ
2020 年 3 月 23 日



四旬節に入ったら間もなくミサ中止になりましたが、この間の教会委員会でそれを 3 月 29 日まで続けることになりました。その上、東海林委員長が調べたところで当分この状態が続くそうだから、4 月に入ってもミサの再開できるかどうかはまだわかりません。司祭の気持ちとして、4 月の他のミサができないにしても、せめて聖週間と御復活祭の典礼をなんとかして行いたいと思っています。4 月の予定については 3 月 28 日の臨時教会委員会で決めるようにしています。

私のもう一つの関心は、皆さんがこの時期をキリスト者らしく生きることができるようどう支えらいいかという懸念です。東海林委員長のお陰で教会のホームページで文章と動画をもってメッセージを発信することができました。その一番最初の動画で話したように、聖書に載っている、イスラエルの民が災害の中の祈り方に倣って祈ることが大切です。イスラエルの民は災害の中でよく罪を告白しながら助けを求めました。やはり主なる神はご自分を信じてご自分の前でへりくだる者の祈りを聞き入れて下さるから、主の慈しみに信頼しながら自分の罪と、自分がその一員である自分の国民の罪を、告白して助けを求める祈りは主に喜ばれる祈りです。それを考えて一つ提案したいことがあります。

去年の「おとずれ」6 月号で紹介した「毎日祈り隊」を勧めたいです。一緒に集まれないなら、時間をなるべく同じにすることによって（うっかりしてちょっとずれても問題ではいですが）心を合わせて一緒に祈りましょう。その時、イスラエルの民に倣って、例えば次のような言葉で疫病からの救いを願い求めましょう。

「慈しみ深い父なる神よ、私たちが顧みて憐れんでください。疫病の危険にさらされている私たちはあなたを仰いで助けを求めます。確かに私たち現代人はあなたを抜きにした社会を作り上げて、人間の力、その知識と技術を頼りにして普段はあなたを顧みません。疫病の前に体の危険を敏感に感じますが、あなたを無視したことによって生じた心の病を顧みようとしません。どうか主よ、こんな私たちでも顧みて憐れんでください。あなたの慈しみに相応しくない私たちでも助けてください。罪びとの為にキリストが流された尊い御血によって私たち現代人にあなたに立ち返る恵みを与えて、この疫病の危険から救ってください。聖霊のうちに、私たちの主イエズス・キリストによって。」

続けて「メモラーレ」という伝統的な聖母マリアへの懇願の祈りを紹介したいと思います。あらゆる必要の為に聖母マリアの取次を願う祈りですが、やはり今の疫病の早期終息を願う為にもとてもいい祈りです。

「慈しみ深い乙女マリアよ、思い起こしてください。庇護を求めて駆け寄る者を、真剣に助けを求める者を、主への取り成しを願う者を、あなたがいまだかつて誰一人見離されなかったことを。ああ、乙女の中の乙女、私の母よ、この信頼に勇気づけられ、みもとに駆け寄り、罪を悲しみながらみ前に立ちます。み言葉の母よ、私の願いを退けることなく、憐れ深く聴き入れて叶えてください。アーメン。」



それだけではありません。聖書に教えられて教会は主なる神の摂理を信じています。あらゆる出来事を通して主は私たちをご自分のもとに引き寄せようとしています。ミサが中止になったことも例外ではありません。ある信徒の話では、自分が忙しいのに「ミサに行かなくちゃ」という思いで頑張ってミサに参加してきました。でも今はミサに参加できないことによって前よりミサの大切さを感じるようになったそうです。やはり人生で他に経験しているように、何かまたは誰かをなくしたら、初めてその大切さを感じます。それなら、もしかしたら去年の「おとずれ」8月号で紹介した「主日なしでできません」と言ったアビテネ村の殉教者の気持ちが、もうちょっとわかるのではないかと思います。そして3月17日の「信徒発見の聖母」の祝いも思い出します。私たちの信仰における先祖である潜伏クリスチャンたちはミサなしで7世代にわたって信仰を守り抜きました。クリスチャンたちのことを思い巡らしたら、もしかしたら主の恵によってもっと多くの方がミサの大切さを感じるようになるのではないかと思います。

そして教会の長い伝統によって、秘跡によるご聖体を頂くことができない時は「靈的聖体拝領」ができます。教会でも家でもいいから、例えば心を込めて次のような祈りを唱えたら主を自分の心に迎えることができます。

十「父と子と聖霊のみ名によって。アーメン。

主イエス・キリスト、あなたはご聖体のうちにおられることを信じてますが、今、私はご聖体をいただくことが出来ません。しかしあなたの愛を求めてあなたを私の心にお迎えしたいと望みます。今、秘跡によるご聖体を受けられないわたしの心においで下さい。

(しばらく沈黙)

あなたがわたしの心においでになったことを信じ感謝します。わたしがあなたから離れることがありませんように。父と子と聖霊のみ名によって。アーメン。」

また、この間の教会委員会で今年の四旬節の「祈りの日」も中止になりましたので、代わりに一人でご復活祭の為の心の準備ができるように、「祈りの日」の為に準備した資料を提供したいと思います。

今年の計画は新しい試みでした。ここ数年間のやり方は聖書の朗読の後で黙想の時間を設けて、その間に黙想のヒントになるような言葉を投げかけました。今回の計画は三部に分かれています。まずは、祈りのうちに自分で聖書の箇所をゆっくり味わいながら読むことです。続いて、一緒に送った質問形式のプリントを取って、その同じ箇所を繰り返して読みながらその質問に答えようとする事です。わかりにくい質問もあると思いますが、繰り返して読んでよく考えることによって、いつもよりもっと注意深く読むことになるから、新しい気づきもあります。最後に、私の方から同じ聖書の箇所についての話を送ります。全部で聖書の三つの箇所を取り上げます。普通のミサの説教と違って、一人一人が先に聖書の箇所をできるだけ自分で理解しようとした後に聞いた話は、もっと心に響くではないかと思って今回の計画になりました。

準備がとても大事だから資料を二回に分けて送ります。第四主日に合わせて、聖書の三つの箇所とその質問プリントを送ります。次の週の間、ご都合に合わせてそれぞれの箇所を黙想する時間を設けて使ってください。そして第五主日に合わせてその聖書の箇所についての私の話を送ります。

① 原罪：創世記3章1節～24節

✚ 1節～3節の蛇の質問と女の答えは、2章16節～17節の主なる神の言葉とどこが違いますか。そのやりとりからどの心の動きが読み取れますか。

✚ 4節～5節で蛇は主なる神にどの下心を言外に負わせようとしていますか。

✚ 女は蛇の口車に乗せられてしまいますが、蛇は女の心のどの弱点を利用して陥れましたか。

✚ 蛇は食べたら「目が開け、神のように善悪を知る者となること」を約束しますが、二人が食べて目が開いたら何を知りましたか。

✚ 二人が本当に「神のようになった」としたら「主なる神が園の中を歩く音が聞こえてきた」時の反応はどう違ったはずですか。

✚ 「取って食べるなど命じた木から食べた」ことは誰のせいですか。特にアダムは二人の誰と誰のせいにしますか。

✚ 蛇と女とアダムが罰を受けますが、14節で呪われるものと17節で呪われるものはどう違いますか。

✚ 主なる神は2章16節～17節で命の木から取って食べることを禁じませんでした、3章22節でどうしてそれを防ぎますか。

② ユダの死：マタイ 27 章 3 節～10 節

✚ 3 節ではユダは判決を聞いて後悔したと書いてありますが、想像したらその判決の報告がユダの心にどんな動きを引き起こしましたか。（4 節も参照）

✚ ユダは「後悔した」と書いてありますが、「後悔」とは「改心」または「回心」とはどう違いますか。

✚ ユダが裏切りの代金を返そうとする狙いは何でしたか。

✚ ユダは「首をつって死んだ」と書いてありますが、想像したらユダはどうして絶望してしまいましたか。

③ ペトロの否認：ルカ 22 章 54 節～62 節

✚ 54 節ではペトロは遠く離れて連行されていたイエズスの後を追いました。想像したらペトロはどんな気持ちで他の弟子のように逃げないでついて行ったのでしょうか。

✚ ペトロは最後の晩餐の席でイエズスに「一緒に死ぬ覚悟がある」と言いましたが、いざという時に三回も「知らない」と言ってしまいました。ペトロの性格はどんなようにこの二つの場面に現れていますか。

✚ 61 節では「主は振り向いてペトロを見つめられた」と書いてありますが、想像したらその時のペトロはどのような気持ちでしたか。

✚ ペトロは「外に出て、激しく泣いた」と書いてありますが、激しく泣いたペトロと、泣かなかったユダと、自分の罪に対する心はどう違いましたか。
